森林やまがた

No.173　2018. 1

フォレストサポーターズ
美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。

目　次

新年のご挨拶……2
平成29年度川村造林記念山形県林業賞……3
「県産木材を利用した積木プレゼント」のキックオフ……4
山形県産原木生産拡大推進大会の開催について…5
今井敏 前林野庁長官の講演会を開催 ……6
「第三回全国森林ノミクスサミットin山形」盛大に開催される！……7
第三十一回山形県きのこ品評会開催……8
フォレスト通信
「林業経営学科ウオッチング」～２期生～……9
みどりのページ
学校環境緑化モデル事業の実施について……10
緑の少年団の出前教室を開催しました……10
企業局だより２
電機事業……12
「やまがたの森づくり発表会」を開催しました……14
センタートピックス
山形大学農学部・山形県農林水産部連携研究…15
森の人紹介
荒井　敦さん・髙橋孝一さん……16
むらやま版・木のある生活推進事業の取組み……17
山形県林業公社の分収林整備事業の取組み……17
最上地域森の感謝祭2017を開催しました……18
「森づくり交流研修会」を開催しました……18
ＮＫＣながいグリーンパワー株式会社
木質バイオマス発電所2017年７月竣工……19
羽越木材協同組合 酒田ホフの完成について ……20
「庄内森とみどりのフェスティバル2017」を開催しました！……20

（表紙写真は、農林大学校林業経営学科２年生・アメリカ農林業視察研修）

新年のご挨拶

農林水産部森林ノミクス推進監
（兼）林業振興課長　安達　喜代美

平成三十年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろより、本県の森林・林業・木材産業の発展につきまして、ご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

山形県は、県土面積の約七割に当たる約六十七万ヘクタールの森林を有しており、木材の供給はもとより、水資源の涵養、県土の保全、地球温暖化の防止など産業活動や私たちの暮らしに大きな役割を果たしております。

このような森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させ、豊かな森林資源を活かし、林業の振興と地域の活性化につなげていくため、県では、「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林（モリ）ノミクス推進条例）を制定（平成二十八年十二月）し、条例に基づき様々な事業を展開しています。

具体的な取り組みの一つとしては、まず再造林の推進があります。知事は、「伐ったら植える」を合言葉に、再造林率百％宣言を行い、県では今年度から再造林に対して、実質百％補助する制度をスタートしました。また、再造林を一層加速させるために、基金を積み立て支援していく民間組織として、昨年十一月に「山形県再造林推進機構」が設立され、来年度からの基金による再造林支援に向けた準備を進めているところです。

木材需要の動向としては、年間約十二万㎥の原木を利用する大型集成材工場や、県内各地で整備が進んでいる木質バイオマス発電所などにより、県内需要が一気に高まっています。そこで、利用期を迎えたスギを中心とした人工林を、計画的かつ効率的に伐採し、県内の素材生産量を平成二十八年度の四十三万㎥から、平成三十二年度には六十万㎥に増加させる計画としています。目標を達成するために、高性能林業機械の導入や路網の整備を進め、低コストで効率的な木材生産を実践していかなければなりません。県内の高性能林業機械は、毎年十台程度増加し、平成二十七年度末で九十二台となっていますが、引き続き台数を増やしていく必要があります。

また、県産木材の利用拡大も大きな課題となっています。県では、住宅以外の民間施設等にも木材利用を促進するため、今年度、交通拠点となる山形空港や山形駅通路の木質化への支援をしており、木のぬくもりを感じる空間を演出しています。二年後に迫った東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、選手村ビレッジプラザの一棟に県産木材を利用して建築することが決定しており、山形県産の木材を全国にＰＲできる絶好の機会となるものと確信しています。

一方、木材利用を進めていくためには、県民みんなで木材を使う取り組みを進めていく必要があります。そこで県では、幼児期から大人まで、そして仕事から暮らしまでやまがたの木に包まれた幸せな生活を送ろうという県民運動「しあわせウッド運動」を展開しています。今年度は、そのスタートとして、幼稚園に製材端材を活用した木製積木のプレゼントを行い、来年度までに県内の全ての幼稚園に贈呈する計画としています。

今年四月からは、県立農林大学校林業経営学科の第一期生が森林組合などに就職する予定で、森林ノミクスの取組みを支える次世代のリーダーとして活躍してくれると大いに期待しているところです。また、平成三十年度の与党税制改正大綱では、「森林環境税（仮称）」を創設し、平成三十一年度から具体的に事業を進めていくことが示されました。今後、詳細な仕組みが示される中で、事業の実施主体となる市町村と連携しながら、新たな森林整備に取り組んでまいります。

県としては、林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、森林ノミクスに関する情報発信に努め、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げまして、新年の御挨拶といたします。

〔県林業振興課〕

平成二十九年度 川村造林記念山形県林業賞

沖田純夫氏 岩浪春吉氏が受賞

◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年十一月十六日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が本年度の受賞者に授与されました。

本年度は、南陽市長から推薦のあった「沖田純夫氏」と、鶴岡市長から推薦のあった「岩浪春吉氏」が受賞されました。

◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第二十三代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に貢献した個人、団体を対象に表彰するため、昭和三十九年に創設されました。

本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和四十年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人五十八名、四十七団体となっています。

◆沖田純夫氏

（南陽市二色根）

平成二十一年度から平成二十七年度まで、山形県木材産業協同組合理事長として、県産木材の需要拡大と製材品の安定供給に貢献し、現在も、顧問として協力されています。

その中で、平成二十四年度から平成二十七年度までは、全国木材協同組合連合会の副会長も務め、国産材の利用拡大など全国的な活動を展開しました。

また、木質バイオマス発電等への産地証明に関する合法木材認定制度の創設や全国初となる大型木造耐火施設「南陽市文化会館」の建設に関わるなど、県産木材の利用拡大に貢献されました。

受賞した沖田純夫氏

所有する工場では、木材乾燥機及び木質焚きボイラーを整備し、製材端材を燃料にして木材製品を乾燥させ品質向上を図るなど、地元工務店の信頼を得ています。

◆岩浪春吉氏

（鶴岡市道形町）

「協同組合やまがたの木乾燥センター」の設立に尽力し、平成二十三年度から副理事長を務めながら、県産木材の品質向上に貢献されました。

受賞した岩浪春吉氏
（写真は代理の智恵子夫人）

また、平成十九年度から平成二十八年度にわたり、「庄内の森林から始まる家づくりネットワーク鶴岡・田川」の会長を務め、地域の木材を活用した家づくりに尽力し、地域材の利用拡大に貢献されました。

木材店は昭和三十三年から開始され、自動製材機械の導入など積極的に生産効率化を図り、地域の木材供給の中核的役割を担いながら、地域の木材産業のリーダーとして林業を活性化しています。

吉村知事を囲んでの記念撮影

◆おわりに

このたび受賞されました沖田様、岩浪様に心からお祝いを申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県林業振興課〕

「県産木材を利用した積木プレゼント」のキックオフ

◆しあわせウッド運動

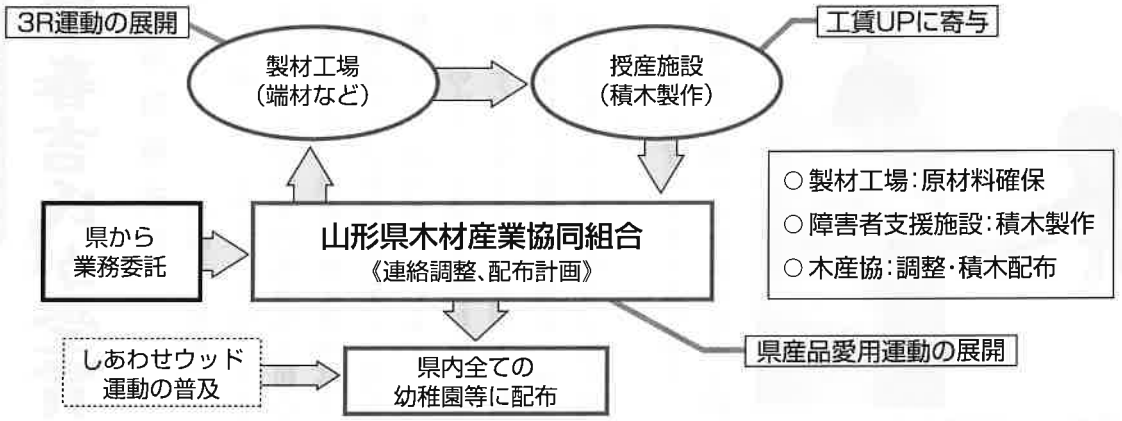
県では、やまがた森林ノミクス推進の一環として、県産木材の活用を推進する「しあわせウッド運動」を展開しています。

「しあわせウッド運動」とは、幼児期から木に親しむ（スタート）、小中高生が木を学ぶ（スクール）、事業所等における県産木材の利用（オフィス）、日常生活での木のある暮らし（ライフ）の4つの「木づかい」を進めることにより、生涯にわたって、やまがたの木に包まれた「しあわせ（4合わせ）」な生活を送ろうという県民運動のことです。

◆幼稚園等への積木の配布

「しあわせウッド運動」の第一弾として、県内の幼稚園・認定こども園にやまがたの木を使った積木を配布します。

今年度は、村山地域と最上地域の幼稚園・認定こども園六十カ所に、製材工場から発生した端材などを障害者支援施設で積木に製品化したものを配布します。



積木の製造から配布までの流れ（多様な主体が参画）

◆プレゼントセレモニー

十二月十二日、キックオフセレモニーとして山形市本町にある「さゆり幼稚園」で知事による贈呈式を行いました。

六十名の園児に父兄が見守る中、吉村知事が積木をプレゼントしました。

代表の園児からのお礼のことばの後、おかあさんコーラスを交えたお礼の合唱のお返しがあり、吉村知事は、終始笑顔で見守っておられました。

その後、さっそく園児たちが積木遊びをはじめ、知事も思わず園児たちと一緒になって県産木材の積木を楽しみました。

これを皮切りに、各幼稚園等への配布を開始します。

◆今後の施策展開

県では、「しあわせウッド運動」により、県民のライフステージに応じた、各種施策を積極的に展開してまいりますので、林業・木材産業の関係団体の皆様には、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

〔県林業振興課〕

積木を楽しむ知事と園児

知事と手をつないで歌う園児

山形県産原木生産拡大推進大会の開催について

◆はじめに

県内では、新庄市の大型集成材工場の稼動や木質バイオマス発電施設の整備などが進み、木材需要が増大しております。

県では、平成二十八年十二月に通称「やまがた森林ノミクス条例」を制定し木材の安定供給を進めることとしており、平成三十二年度には、原木生産量六十万㎥を目標に、様々な施策を実施しております。

八月三十日に山形市のパレスグランデールにて、県産木材の生産体制の強化と安定供給体制の構築に向けて、県内素材生産者等の原木増産に向けた気運の醸成を図るため、山形県原木流通協議会主催のもと山形県産原木生産拡大推進大会が開催されたので、報告します。

◆大会の概要

公益財団法人東北活性化研究センターの宮曽根隆部長より「東北の林業・木材産業の現状と今後の方向性」と題して講演がありました。

林業再生には、山で伐採する川上から製材、発電などで使用する川下まで一連の流れを統合した6次産業化（サプライチェーン）が必要になっていることや、国有林と民有林が連携した施業、最先端の技術導入の重要性について説明がありました。

また、原木の流通が一県に留まらず、広域的になっていることから、需給情報の共有・調整機能の重要なことなど、東北地方の林業について調査されてきた内容に基づく提言がありました。

講演の様子

意見交換会では、東北地方で最も生産量を伸ばしている青森県の森林組合連合会から黒瀧晴彦参事を招き、「青森県産原木の生産量拡大に向けたポイント」と題して話題提供がありました。

青森県森連では、国有林材を中心に原木の増産を行いながら、民有林の原木生産を拡大したこと、原木の直送をメインに行っていること、営業は全国的に行っていることなどの説明がありました。

意見交換会（話題提供）の様子

その後、山形大学農学部の野堀嘉裕名誉教授を進行役にし、意見交換が行われました。

温海町森林組合からは、森林集約化における理事の役割について、米沢地方森林組合からは、人員増員や高性能林業機械の導入について、遠田林産㈱からは、国有林での原木生産の状況など、県内の森林組合、素材生産事業者から取組み事例の説明がありました。

また、会場からパネリストに対し、原木増産に必要なこと、大型工場に対する交渉方法など、様々な質問があり、活発な意見交換が行われました。

大会の最後に、山形県原木流通協議会の佐藤景一郎会長から「原木増産宣言」が行われ、今後林業関係団体が一丸となって県産原木の生産拡大に取組みを確認しました。

意見交換会の様子

◆終わりに

県では、原木増産に向けて山形県原木流通協議会と連携を図りながら、今後も様々な取組みを行ってまいります。

〔県林業振興課〕

今井敏 前林野庁長官の講演会を開催

◆はじめに

今年七月に林野庁長官を退官された今井敏氏をお招きして、「山形県の農林業に期待するもの」と題し十月二十三日にホテルキャッスルで講演会が開催されました。

今井氏は、平成二年から三年間、本県の農林水産部農政課長として勤務され、米の主力品種「はえぬき」のデビューに関わるなど、本県の農林水産業発展の基盤を築いていただきました。平成二十六年には林野庁長官に就任され、地域経済を活性化させ、地域創生を図ってゆくため林業成長産業化の推進を提唱する等、三年間にわたり日本の森林行政のトップとして、ご活躍されました。

◆講演会の概要

講演では、我が国の農林水産業の現状を踏まえ、「縮小することが見込まれる国内市場だけではなく、拡大する可能性が高い世界の農産物マーケットに目を向けていく必要がある」、「農林漁業者と他産業との新たな連携を構築し、生産・加工・販売・観光等が一体化したアグリビジネスの展開や、農山村にイノベーションを起こし、農林漁業を成長産業化していく必要がある」など、グローバルな視点に立った施策が必要だとお話しされました。

講演する今井敏氏

平成二十九年六月に閣議決定された「未来投資戦略」においては、林業の成長産業化と国が検討している「森林環境税（仮称）」を活用した森林の適正な管理について明文化され、今井前長官の思いが反映されたものとなっているとのことでした。

◆新たな門出をお祝いする会

講演終了後、吉村知事や若松副知事など一〇〇名を超える参加者を得て「今井敏氏の新た門出をお祝いする会」が盛大に執り行われました。参加者を代表して、知事から県産木材を花弁に使った「MOKUKA」（ウッドデザイン賞2017受賞）が贈られました。

記念品の木花を贈呈

◆おわりに

今井前長官には、台風の影響で山形新幹線が運休している中、仙台経由でお越しいただきました。

今後とも、様々な分野でのご活躍を心からご祈念いたします。

（県森林協会）

森林とのかけ橋をめざす　総合アドバイザー

（一財）日本森林林業振興会　秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林つくり等活動を支援する法人です

秋田支部　支部長　木村大助　〒010-0001　秋田市中通5-9-49　TEL 018(832)4040　Fax 018(835)6837

山形出張所　所長　木村大助　〒990-2473　山形市松栄1-5-41

『第三回全国森林（モリ）ノミクスサミットin山形』盛大に開催される！

平成二十九年十一月二十四日、山形市内の会場で「第三回全国森林ノミクスサミットin山形」（主催：山形県、後援：林野庁・山形県森林協会）を開催しました。

県では、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かしていく『やまがた森林ノミクス』を宣言し、林業の振興を図り雇用を創出し、地域活性化につなげる取組みを進めています。

主催者あいさつ（吉村知事）

この地方創生の要ともなる「森林ノミクス」の取組みを全国に発信するとともに、さらなる林業の振興や地域活性化に結び付けていくためサミットを開催したところ、県内外約三百人の方々から御参加いただきました。

◆開会

開会にあたり、吉村知事の主催者あいさつに続き、来賓の林野庁長官（代理：本郷国有林野部長）から御祝辞をいただきました。

◆第一部　講演

テレビのコメンテーターとしておなじみの岐阜県立森林文化アカデミー学長　涌井雅之氏から「環境革命の時代・日本の森林の価値を考える」と題し、「森林は経済的な価値だけでなく、生態系を支えている社会資本」であり、「地域が生き残るには、個性として自然環境をどう活かすかが重要」などのご講演をいただきました。示唆に富んだお話は大変有意義であったと参加者から好評をいただきました。

◆第二部　トークセッション

「森林資源を活用した地域活性化と森の再生について」をテーマに、全国で活躍されている方々が、木材供給と再造林、木材利用の推進、人材育成の方策などについて意見を交わしました。コーディネーター等の方々は次の五名です。

コーディネーター＝寺西俊一氏（一橋大学名誉教授）、パネリスト＝本郷浩二氏（林野庁国有林野部長）、林雅文氏（㈱伊万里木材市場 代表取締役社長）、平田恒一郎（ナイス㈱代表取締役社長）、細野武司氏（山形県森林協会 会長理事）

トークセッション

◆展示コーナー

県産木材のアロマオイルや地域材利用住宅、木製玩具などの山形の木工品、森林ノミクス紹介パネルなどの展示コーナーも多くの来場者の関心を集めていました。

（県林業振興課）

製材・木材販売・木材プレカット・建築設計施工

株式会社　アイタ工業

製材部　プレカット部　建築部

◆ホームページ http://www3.omn.ne.jp/~aita2845　◆E-mail:aita2845@ms3.omn.ne.jp

本　社　〒992-0022 米沢市花沢町2845 TEL 23-1847㈹ FAX 23-1835

プレカット部 建築部　〒992-0022 米沢市花沢町2845 TEL 23-1978 FAX 23-1979

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集合！

第三十一回山形県きのこ品評会開催

○今年も、きのこ生産者の逸品が集合

昨年の十一月二十九日（水）から三十日（木）の二日間にわたって、第三十一回山形県きのこ品評会が、新庄市の「最上広域交流センターゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図り、きのこ産業の振興発展に寄与することを目的としています。山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。

今年も県内各地の生産者から、生シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ヒラタケ、マイタケ、ブナシメジ、エリンギの七品目の見事なきのこ約百点がエントリーされ、当日出品された六十九点について審査が行われました。

○農林水産大臣賞は荒木正人さんに

二十九日（水）に開催された審査会では、きのこアドバイザー渋谷巌氏を審査委員長とする十五名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われました。

その結果、主な受賞者は次のとおりとなりました。

【農林水産大臣賞】
荒木　正人　氏（鮭川村）
生しいたけ（菌床栽培）

【林野庁長官賞】
海藤　敏文　氏（大蔵村）
生しいたけ（菌床栽培）

【山形県知事賞】
熊谷　耐志　氏（鮭川村）
なめこ（ビン）

翌三十日（木）には、会場の交流広場にて出展されたきのこの展示会が開催され、訪れた人達は、見事に栽培されたきのこの形や色、品揃いの素晴らしさに見入っていました。

展示会終了後、表彰式が執り行われ、主催者の山形県山菜・きのこ振興会代表幹事　渡邊真司氏より「きのこ生産量の増加に伴い、栽培技術が向上してきている」、審査委員長である渋谷巌氏からは「審査基準に基づき厳正に審査した結果、出品されたきのこは、近年になく高品質なきのこが多く、甲乙つけがたかった」等との講評が行われました。

続いて、審査結果が発表され、農林水産大臣賞、林野庁長官賞、県知事賞、優秀賞五点、優良賞五点及び特別賞二点、合わせて十五名の方に対し各賞が授与されました。

○きのこの消費拡大に向けて

県では、今後とも県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進するとともに、きのこ販売拡大キャンペーンなどを通じて、県産きのこのさらなる消費拡大につなげてまいります。

（山形県農林水産部林業振興課）

寒い冬にも、やっぱり「きのこ」！

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢　やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜ăきのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

Forest フォレスト通信

農林大学校林業経営学科から「林業経営学科ウオッチング」～2期生～

●はじめに

今回のフォレスト通信は、昨年四月に林業経営学科二期生として入校した一学年の様子をお伝えします。

一年生は十名、全員が山形県内出身の男子です。出身地別に見ると、村山二名、最上五名、置賜一名、庄内二名です。出身校は、産業高校と普通高校出身が五名ずつです。

入校当初は森林・林業の専門用語に戸惑う様子も見られましたが、「林業概論」や「造林・育林」、「森林計測」、「林産」、「樹木」などの講義で『知識』を得、「森林管理実習」や「林業機械実習」で『技能』を学び、着実に『技術』が身に付いています。

（「知識×技能＝技術」）

「講義」ではその仕組みや目的を十分に理解すること、「実習」では講義で学んだことを体験し、体に覚えさせることを常に意識しています。

また、地域行事や地元保育園での森林学習指導など、企画やコミュニケーションスキルの向上にも取組んでいます。

以下、実習の様子を紹介します。

◆森林組合の現場等での実践実習

八月から九月にかけて、「車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育」を受講したのち、最上広域森林組合や金山町森林組合から協力いただき、高性能林業機械などの実習を行いました。

十月中旬、最上広域森林組合の間伐施行地（真室川町関沢）において、三日間にわたりハーベスタやフォワーダなど高性能林業機械の操作を指導いただきました。バーベスタは、全体的に慎重で丁寧な人、操作の荒い人、メリハリの利いた操作をする人など、個性が現れます。

コツや悪いところを話し合うなど、互いに刺激し合う、効果の高い実習となりました。

ハーベスタの操作実習

十一月中旬から十二月中旬にかけての6日間、金山町森林組合の木材集積場（金山町朴山）でグラップルによる「はい積み特訓」を行いました。金山町森林組合の方に指導いただき、頭で理解したことを体に覚えさせる繰り返しの練習です。

はい積み特訓

数年後には、二期生の誰かが指導する側にいるかもしれません。

◆県営林での森林管理実習（間伐）

「造林・育林」の講義で学んだ「間伐」について、県営林をフィールドに測量～調査～間伐設計～伐採～搬出の一連の流れを経験しています。

ここは昨年、一期生が取組んだ隣の林分で大蔵村清水の五十三年生のスギ人工林です。

森林計測で学んだコンパス測量や樹高測定を反復練習するとともに、地形や林況に合わせた応用力を鍛えます。時折、班をシャッフルし、チームを変えることでメンバーに合わせた役割分担を自ら考え、班の中で作業の目的や手順を共有し、安全かつ効率的に仕事をこなすチームプレーも学びます。

「樹木」で学んだ知識で下層の植生を確認、プロット調査などを行って林況を把握し、伐る木・残す木について班で話し合います。

枯損木や被圧木、被害木など、伐る木が決まれば伐採です。現場では丸太で練習したように水平に切ることも結構難しいと感じた学生もいたようです。当然、掛かり木も発生するので、副担任や技術指導アドバイザーの皆さんと安全確保しながらロープや木廻しベルトの使い方も練習します。

暗くなるころ学校に戻りますが、機材を片付け、その日の作業を振返り、明日の段取りを打合せ、四時限目が十六時二十分に終了します。

清水県営林での間伐

正規の時間が終了したあと、切れ味に拘る学生はチェーンソーの目立てをガンバリます。

（山形県立農林大学校）

みどりのページ

学校環境緑化モデル事業の実施について

公益社団法人国土緑化推進機構では、学校環境の緑化を通じて環境教育の推進を図ることを目的として、毎年「学校環境緑化モデル事業」を実施しています。

この事業は、株式会社ローソンの店頭に寄せられた「緑の募金」を活用し、全国の小学校で取組んでいる「学校の森や校庭の整備・ビオトープづくり」などを支援するもので、今年度は全国の60の小学校が選ばれました。山形県内では、長井市立西根小学校と鶴岡市立大泉小学校が採択を受けて取組み、事業が完了しましたのでその概要を報告いたします。

長井市立西根小学校は、平成32年に創立100周年を迎えるにあたり、この事業を活用して校庭の環境整備を行いました。老木化したソメイヨシノの更新を図るために新たにソメイヨシノの苗木2本を植樹したほか、校庭にあるトウヒ類やヒバ類などの常緑樹の剪定を行ったことにより、校舎に明るい日差しが差し込むようになりました。

鶴岡市立大泉小学校では、校舎の周りに整備していた「トトロの森」に今回の事業で新たにハナミズキやサルスベリ、サザンカなど29本の花木類を植栽し、1年を通して四季折々の花を楽しむことができるようになりました。

この事業により両校の校庭は緑豊かできれいな環境に整備され、児童や学校関係者の皆さんから大変喜んでいただくことができました。次年度の募集は例年2月頃から始まりますので、取組んでみたい学校がありましたら、山形県みどり推進機構までお問合せください。

植栽したソメイヨシノの前で記念撮影（西根小学校）

代表者による記念植樹（大泉小学校）
「大きく育ってね～！」

緑の少年団の出前教室を開催しました

山形県緑の少年団連盟では、少年団活動に対して講師派遣や教材提供を行う出前教室を実施しています。

平成29年10月には2つの少年団においてこの出前教室を活用した活動を行いましたので、その概要を報告いたします。

◆山形市立西山形小学校

期日　平成29年10月6日・12日

場所　西山形小学校校庭

講師　三森和裕氏（森林インストラクター）

参加者　西山形小学校緑の少年団27名

西山形小学校では、3年生になると学校内の樹木を「私の木」として自分で決め、1年を通して自分の樹木を観察しながら緑の大切さを知ることを目指しています。

今回の出前教室では、講師の先生から樹木の特徴や名前の由来などを教えてもらいながら「私の木」の名札作りと樹木への取付けを行いました。この活動を通して、緑を大切にする気持ちを養うことができ、これまで以上に「私の木」を大切に見守っていってくれることと思います。

樹木の名前や特徴を教わりました

みどりのページ

◆飯豊町立添川小学校

期日　平成29年10月24日

場所　添川小学校いなほ学校林

講師　奥山彰敏氏、横戸美栄氏（森林インストラクター）

参加者　いいで緑の少年団36名

いいで緑の少年団の活動は5年目を迎え、今年は、里山林の成り立ちや人との関わりのほか、松枯れやナラ枯れが及ぼす森林生態系への影響について学びました。また、サクラの枯れ枝の剪定や根元への施肥を行い、学校林の樹木を自分たちで守り育てる作業を体験しました。活動の最後に行ったフィールドビンゴでは、五感を使って樹木の様々な特徴を感じることができました。

この活動を通して、森林の仕組みや人との関わり、森の中で活動する楽しさなどを理解するとともに、身近な自然を大切にする心が育まれたと思います。

「私の木」につける手作りの名札

松枯れやナラ枯れについて学びました

山形県緑の少年団連盟では、これからも活動プログラムの企画や講師の派遣などにより緑の少年団活動を支援して参りますので、取組んでみたいという少年団がありましたら、山形県緑の少年団連盟（山形県みどり推進機構内）にお気軽にお問合せください。

（(公財)山形県みどり推進機構）

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま（H29. 10. 1～11. 30）

（山形県みどり推進機構取扱い分）

㈱アイタ工業、㈱アツケン、荒生木材㈲、有賀建設㈱、㈱石川測量事務所、㈱ウンノハウス、大江設計㈱、㈱小川建設、㈱柿崎建設工業、㈱春日測量設計、㈱カナン、㈲金子商事、北日本オイル㈱、㈱クネット東北、小白川建設㈱、酒井鈴木工業㈱、㈱佐藤総業、三協コンサルタント㈱、㈱三洋、㈱ジャワ商会、城東機械製造㈱、庄内環境緑化事業（協組）、㈱荘内銀行、㈱荘内銀行県庁前支店、㈱庄内測量設計舎、森林研究・整備機構森林整備センター山形水源林整備事務所、㈱高橋組、㈱タカハシ電工、中央公害清掃㈱、㈲ツチヤクリーン、㈱出羽測量設計、㈱東北エヌイーエレクトロ、東北エプソン㈱、㈱東北技研、東北興産㈱、東北ナノテック㈱、㈱東北緑地造苑、ドライブイン大沼、中山ロータリークラブ、㈱成沢運輸、㈲西長合金鋳造所、㈱仁科工務店、日産マイカーランド㈱、日東ベスト㈱、日本地下水開発㈱、農林中央金庫山形支店、㈱パスコ山形支店、㈱ピンテック、㈱ホリエ、三ツ和工業㈱山形工場、㈱メコム、本沢郵便局、㈱モリヤ、八千代田精密㈱、山形環境保全（協組）、㈱山形銀行南山形支店、山形空調㈱、山形県緑を育てる女性の会、山形国際ホテル、㈱山形新聞社、㈱山形ビルサービス、山形放送㈱、山建工業㈱、山和建設㈱、㈱ライナー、㈱ラムダ、㈱渡部砂利工業所、㈲渡辺商店

（敬称略、五十音順）

ご協力ありがとうございました。

企業局だより ②

山形県企業局の事業

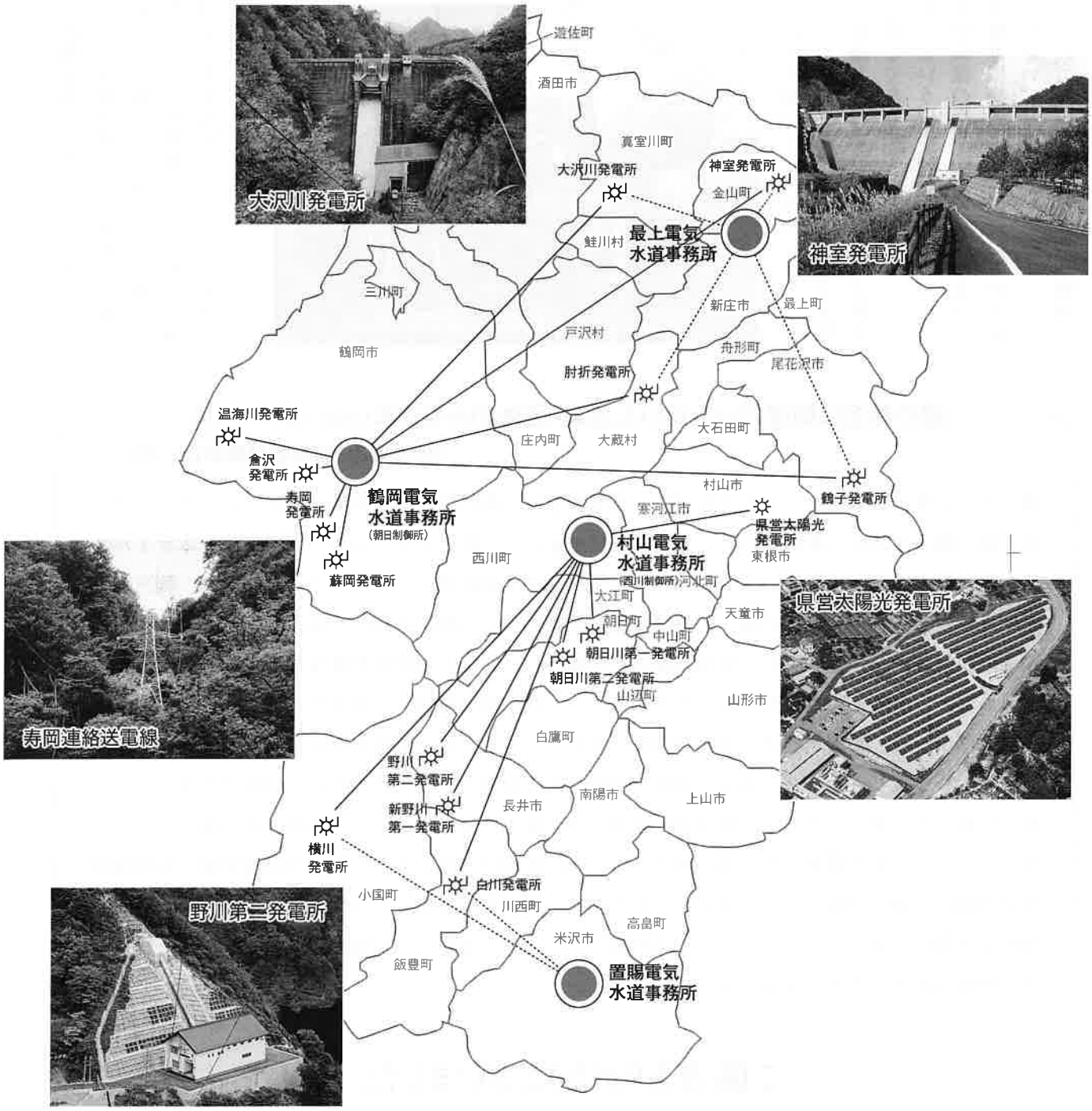
■電気事業

山形県企業局では森林により育まれた県内の豊富な水資源を活用しながら電気事業を展開しております。

昭和29年に最大出力6千百kWの野川発電所（旧野川第一発電所）が運転を開始して以来、順次発電所の建設を促進し、今日では水力発電のほかに太陽光発電を含め発電所数15、最大出力8万9千7百20kW、年間供給電力量は約4億kWhとなっており、県内の事業用発電設備容量の約8%、水力発電に限れば約22%を占め、供給電力量では約4%を占めています（平成28年度末現在）。

発電施設の老朽化対策

発電設備や送電設備の維持管理につきましては、森林所有者をはじめ、関係の皆様からご理解・ご協力をいただきながら行っているところですが、運転を開始してから50年を経過した発電所等が10箇所あり、老朽化が進んでいます。このことから、これらの発電設備や送電設備について順次リニューアルを行い、これから



も電力を安定して供給していくこととしています。

現在リニューアルを行っているのは、朝日町の朝日川第一発電所、鶴岡市の寿岡連絡送電線になりますが、今後も計画的に進めていきたいと考えております。

山形県エネルギー戦略に向けた企業局の取り組み

東日本大震災を契機として再生可能エネルギーを活用した発電量の更なる増大が求められており、企業局では、平成24年3月に県が策定した「山形県エネルギー戦略」を踏まえ、水力発電の他、太陽光発電及び風力発電や、浄水場等への太陽光発電設備又は小水力発電設備の導入など、積極的に事業を展開し、県内の電力供給に貢献していくこととしています。

平成29年10月には、金山町の神室ダムにおける利水・河川維持のための放流を利用した神室発電所が発電を開始しました。

企業局では、「山形県エネルギー戦略」に掲げた目標達成に向けて、今後も森林所有者や関係者の皆様のご理解・ご協力をいただきながら、再生可能エネルギーの活用に努めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【水力発電所】

発電所名	最大出力（kW）	所在市町村	河川名	水源ダム名称	運転開始
新野川第一	10,000	長井市	置賜野川	長井ダム	平成22年6月
野川第二	8,900	〃	〃	木地山ダム	昭和36年8月 (平成21年8月移設)
白川	8,900	飯豊町	白川	白川ダム	昭和55年2月
横川	6,300	小国町	横川	横川ダム	平成20年8月
朝日川第一	9,000	朝日町	朝日川	木川ダム	昭和33年11月
朝日川第二	4,800	〃	〃	―	昭和35年1月
倉沢	14,000	鶴岡市	赤川	荒沢ダム	昭和31年1月
寿岡	6,400	〃	〃	―	昭和37年12月
蘇岡	7,000	〃	〃	―	昭和40年12月
温海川	1,000	〃	温海川	温海川ダム	昭和61年4月
大沢川	5,000	真室川町	鮭川	高坂ダム	昭和42年1月
肘折	3,300	大蔵村	銅山川	―	昭和45年2月
鶴子	3,700	尾花沢市	丹生川	新鶴子ダム	平成5年4月
神室	420	金山町	金山川	神室ダム	平成29年10月
14カ所	88,720	9市町村			

【太陽光発電所】

発電所名	最大出力（kW）	所在市町村	運転開始
県営太陽光発電所	1,000	村山市	平成25年12月

【送電設備】

送電線名	所在市町村	鉄塔数（基）	延長（m）	設置
朝日川連絡送電線	朝日町	27	7,734	昭和35年1月
寿岡連絡送電線	鶴岡市	22	6,073	昭和37年12月
蘇岡連絡送電線	〃	16	4,102	昭和40年12月
野川連絡送電線	長井市	18	4,315	平成22年2月

この記事に対するお問い合わせは
担当課：山形県企業局電気事業課　　担当：経営戦略推進・発電管理担当
TEL／FAX：023-630-2345 ／ 023-630-2741

「やまがた緑環境税活用事業」
「やまがたの森づくり発表会」を開催しました

◆はじめに

県では「やまがた緑環境税」を活用した森づくりの取組みを広く県民の方々に発信し、県民参加の森づくり活動を促進するため、毎年活動発表会を開催しています。今年は、十二月九日（土）天童市総合福祉センターを会場に、県内一円を対象として開催いたしました。

◆活動発表

みどり豊かな森林環境づくり推進事業実施団体から二団体、事業実施市町村から一市町村、やまがた絆の森参画企業から一企業の計四団体が発表を行いました。発表では日頃の活動の紹介や、活動の中で大切にしていることを話していただくなど、今後の森づくり活動の参考となる様々な事例発表がありました。

◆講演

活動発表に引き続き、「子どもたちと楽しむ森林教育」と題して、国立研究開発法人　森林研究・整備機構森林総合研究所 多摩森林科学園の井上真理子（いのうえまりこ）氏に講演していただきました。

井上氏は東京都出身、大学で林学を専攻した後に、都内の農業高校で教職に就かれ、現在は多摩森林科学園で森林教育の主任研究員として活躍されています。

講演では、森林教育を取りまく環境の変化や都市と地方での森林との関わり方の違いなど、山形県の森林教育を考える上で、非常に参考となるお話をいただきました。

講演の様子

◆ポスター発表・ワークショップ

県内で活動する全ての森づくり団体が活動について発表しました。今年度の活動を総括した個性豊かなポスターが多くみられました。ポスターの前では積極的に情報交換が行われるなど、地域の垣根を越えた交流の場になったと考えます。

また、会場内では箸づくりワークショップも行われ、子どもから大人まで、多くの方で賑わいました。

ポスター発表の様子→

←箸づくり
ワークショップの様子

◆おわりに

当日は約二百名の方に参加いただき、森づくり活動の活性化につながる大変有意義な会となりました。県では、今後とも、団体や市町村、企業などが取り組む森づくり活動に対し支援を行ってまいります。

〔県みどり自然課〕

平成三十年度 山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業 募集開始のお知らせ

やまがた緑環境税で支援する県民参加の森づくり活動を募集します。

○募集期間

平成三十年一月九日（火）から二月八日（木）まで

○お問い合わせ

応募方法などの詳しい内容は、最寄りの総合支庁森林整備課森づくり推進室までお問い合わせください。

◆村山総合支庁森林整備課
（TEL０２３－６２１－８１５６）

◆最上総合支庁森林整備課
（TEL０２３３－２９－１３４８）

◆置賜総合支庁森林整備課
（TEL０２３８－３５－９０５３）

◆庄内総合支庁森林整備課
（TEL０２３５－６６－５５２３）

※事業の実施は、平成三十年度の予算成立が前提となりますのでご了承願います。

〔県みどり自然課〕

センタートピックス

山形大学農学部・山形県農林水産部連携研究

1　はじめに

県農林水産部は、山形大学農学部と本県の豊かな自然環境と農林水産業を基盤とした学術的、業際的活動を展開することを目的に、平成18年2月に連携と協力に関する協定書を締結しました。森林研究研修センターでは、平成29年度はこの協定に基づく3つの連携研究ユニットを設置し、研究を進めています。

2　国産漆の増産・改質・利用技術の開発研究交流活動ユニット

○山形大学：林雅秀准教授
○山形県：中村人史研究開発専門員

ウルシの木

県内には漆の「ふるさと文化財の森」が3地区（全国で5地区）指定されており、国産漆の産地としてのポテンシャルが高いと考えられます。

一方、文化財修復等の需要増大が見込まれる中で、資源量（漆液収穫可能量）の十分な把握がなされておらず、漆が良く出る量産木の判別もできないため、漆増産に向けての体制が整っていません。

このため、当センターではウルシ（樹木）の健全度調査と健全度に応じた漆（樹液）採取量の調査及び漆液資源量調査手法の開発、山形大学ではウルシ林経営の収益性の調査を進めています。

3　竹林およびタケノコの総合的な生産管理研究交流活動ユニット

○山形大学：芦谷竜矢教授
○山形県：古澤優佳専門研究員

スギ林に侵入するタケ

庄内地方では地元産タケノコの需要が非常に高く安定供給が望まれているなかで、北限の栽培地としての雪害を考慮した栽培マニュアルが平成29年1月に完成しました。

今後も引き続きタケノコの生産振興を後押しするため、当センターではスギ林等への竹の侵入に関する実態調査と防止方法、山形大学ではタケノコの成分的な特性や地域・栽培管理との関係、竹の生長に伴う成分変化や伸長スピードの裏づけ等について調査しています。

4　森林野生獣類の総合的管理研究交流活動ユニット

○山形大学：江成広斗准教授
○山形県：齊藤正一研究主幹

県内で撮影されたニホンジカ

近年、全国的にニホンジカ等の野生獣類被害が増加傾向にあります。

県内でも今後見込まれる森林被害に対処するため、森林野生獣類の生息状況や生息環境を調査しています。

基礎的データを整理して、リスク低減策を検討していくため、当センターではニホンジカ、山形大学ではニホンザル等のモニタリング調査やGISなどによる生息管理の検討を行っています。

〔森林研究研修センター〕

——全国食用きのこ種菌協会会員——
〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2
株式会社
河村式種菌研究所
お問い合せは：電　話 0234(42)1122㈹
ＦＡＸ 0234(42)1124

東北みちのくの珍味
トンビマイタケ菌床
まいたけ榾木
庭先でも栽培できます。

きのこ種菌　しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

森の人紹介

地域産材の伐採から製材まで

上山市　荒井　敦さん

上山市の木村製材所で工場管理、営業全般を担う荒井敦さんを紹介します。

荒井さんは昭和五十一年生まれ、結婚を期に奥さんの実家の稼業の製材業に取り組み始めました。木村代表夫妻と荒井さんの3人の家族経営ですが、今では代表の右腕として、製材所を切り盛りしています。

主力商品は板材等の製材製品で、主に地元工務店を中心に県内の建築現場に配達しています。原木は生居地区を中心に全量上山市内から調達しており、製材のかたわら原木の生産にも一部取り組んでいます。立木売買の交渉は、近隣の森林所有者との付き合いの長い、代表の木村さんが受け持ち、家族総出で伐出を行います。

目下の課題は販路拡大と話す荒井さん。そこで思いついたのが薪販売です。

製材品の注文の減る冬場の商品として、数年前から、広葉樹の薪の生産、販売に取り組み始めました。

県や市町の木質バイオマス燃焼機器への補助制度も徐々に浸透し、顧客は少しずつ増えてきています。

薪の購入者にプレゼントしている製材端材は、薪ストーブの焚き付けにうってつけと大好評になっています。また、薪の容器も大型のメッシュ素材のバッグにし、配達の際の積み下ろしが楽になるよう工夫しています。

以前は蔵王で索道の管理、営業に携わっていた荒井さん。この業界に入ってまだ十年足らずのため、毎日が勉強と話します。しかし、異業種経験者だからこその、業界の常識にとらわれない視点、新たな発想ができるのも強みです。地域材の伐採から製材、配達など多忙な業務の合間を縫って、市の産業まつりでの地元産材のピーアール等にも精力的に取り組む荒井さん。今後の活躍がますます楽しみな木材人の一人です。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

高性能林業機械のスペシャリスト

青年林業士　髙橋　孝一さん

真室川町差首鍋の有限会社高菊林業で活躍されている青年林業士の髙橋孝一さんを紹介します。

髙橋さんは、県外の大学を卒業後、家業を継ぐため、地元に戻り、現在は会社の事務の他、作業班の管理、間伐や皆伐等の現場作業、機械のメンテナンスまで様々な業務に携わっております。

高菊林業は、主に最上や庄内地域で国有林・民有林の間伐を中心に事業を展開しておりますが、ハーベスタ、プロセッサ、フォワーダ、ザウルスロボ等の高性能林業機械を多数所有し効率的な森林施業を実施しています。また、整備工場も併設しているため、自社で機械のメンテナンスが行え、現場作業中に機械のキャタピラ外れや油圧ホースの破損、電気系統の故障などが発生しても、修理等速やかに対応できるというメリットがあります。

機械工学が専門の髙橋さんは、作業員からの機械の改良要望等に応え、ヘッドガードの装着やステップの追加、脆弱箇所の補強等を自ら部品を加工するなどして対応しています。

フェラーバンチャやタワーヤーダの導入も検討しているが、コストや運用を考えると購入に踏み切れないとのことで、林業事業体に対する補助事業の充実が必要と思われました。

また、現在は2班体制で作業をしているが、将来は4班に増員して間伐等の需要に対応したいと考えており、できれば農林大学校の卒業生を採用したいとのことで、地域活性化のためにも地元に若者を増やしたいと話していました。

今後は、フォレストマネージャーの資格を取得したいとのことで、地域の森林整備、林業事業体のリーダーとして、更なる活躍が期待されています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

むらやま版・木のある生活推進事業の取組み

村山総合支庁では、有識者から成る木育推進協議会を設置し、幼稚園児から小学生を対象に、木に触れる体験を通して、木材の良さや地域の木材を使うことの大切さの理解を深める「むらやま版・木育プログラム」の開発に取り組んでいます。

平成29年10月28日（土）に、神町幼稚園において、同協議会委員や保護者会の協力を得ながら、約２００人が参加して、マイ箸づくりプログラムを試行しました。参加した園児は木の香りを何度も嗅いで「いい匂い」と喜ぶなど、親子共同で鉋を掛け、箸づくりに励んでいました。

箸の材料として、サクラ、クルミ、ホオノキ、ヒノキのほか、地域の木材として、サクランボ、ケヤキ及び西山スギを準備しました。特に人気があったのは、サクラやヒノキでしたが、木が硬いため根気のいる鉋がけになりました。鉋掛けは初めてという保護者もおり、箸づくりを通して、身近に木に触れる機会の必要性を改めて感じ取ることができました。

今回の試行結果から、樹種による作業難易度や対象年齢の区分などについて、プログラムにフィードバックし、箸づくりを通して木材の色や香り、手触りなどを子どもが体感しながら、地域の木材を使うことが地域の森林づくりに繋がることの理解が進むよう、親しみやすいプログラム作りに取り組んでまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

山形県林業公社の分収林整備事業の取組み

◆公社造林の概要

（公財）山形県林業公社は、造林政策の担い手として昭和四二年に設立し、今年で五十年を迎えました。

森林所有者自らでは造林の困難な奥地の条件不利地域において森林整備を通じ、県土の保全や水源の涵養など森林の公益的機能の維持増進をはじめ、森林整備による雇用を創出し、地域振興に寄与してきました。

公社造林は、三十一市町村に約一万五千六百ヘクタール、県内の民有人工林面積の約一三％に達し、土地所有者との分収契約により造林地の団地化を図ってきました。これらの分収林は、全体の約七割が生育過程の四十年生未満の林齢となっています。

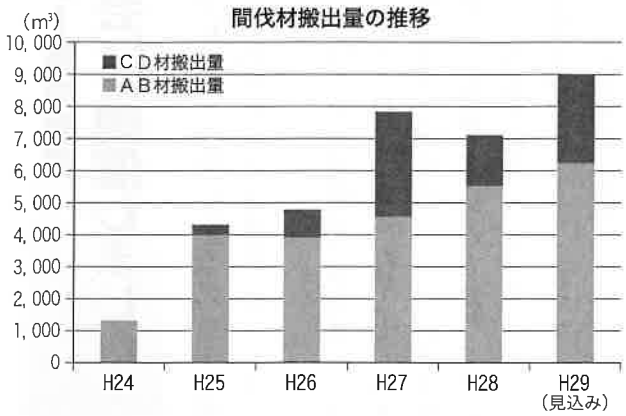
◆分収林事業の取組み

林業公社では、森林経営計画（県認定属人計画）において計画的かつ適正な森林整備を行い、「施業集約化」「路網整備」木質バイオマスエネルギー利用を含めた「間伐材の販路拡大」など着実に進めています。

平成二四年度から搬出間伐を本格的に取組み、生産目標を確実に実現する為、ＡＢ材の素材販売は、県内の流通販売を一元的に担っている県森連に委託しており、約七割が協和木材（株）新庄工場へ出荷してます。又、ＣＤ材は生産事業実施者が買取り、県内の木質バイオマス発電へ供給をしてます。

増加する県内の木材需要に対して体制の構築、高性能林業機械による低コスト生産や路網整備の充実を図り公社造林地から安定的な木材の供給に努めていきます。

〔公益財団法人山形県林業公社〕



最上地域森の感謝祭2017を開催しました

最上地域の豊かな自然に感謝し、「県民参加の森づくり」を一層推進するため「最上地域森の感謝祭2017」が平成二九年十月七日（土）に大蔵村にある「肘折いでゆ館」の周辺で二五〇名の参加のもと開催されました。

今回の開催テーマは「つなげよう未来へ　緑のバトン」です。

式典では、「コールささりんどう」による素敵なコーラスで開幕し、森づくりリレー旗伝達、緑化功労者の表彰、記念植樹（オオヤマザクラ）などが行われました。

式典風景（希望（のぞみ）大橋を背景に）

復興緑化　植樹風景

式典後に、平成二五年度に発生した肘折地区での地すべり災害の復旧地を会場に、復興緑化としてヤマハンノキを百本、緑の少年団や一般参加者で植樹しました。

当日は天候不順にもかかわらず、一所懸命に植樹する参加者の熱気が伝わってきました。

その後、テントブースでは、子供達が木工クラフトをしたり、ネイチャーゲームをしたりして、楽しい時間を過ごしていました。

〔最上総合支庁森林整備課〕

BEST！森づくりリーダー育成事業「森づくり交流研修会」を開催しました

森づくり活動を実施している個人や団体を対象として、最上地域の森林・林業に関する先進的取組みを現地で研修し、幅広い森づくり活動の発掘など図る目的に、交流研修会を平成二九年十二月八日（金）に、最上町一円で行いました。

午前中は、東法田地区で、日本一の大アカマツや、最上管内の民有林で初めて実施した、一貫作業システム（伐採から植栽までを一連の作業として行った作業システム）と、伐採後に小花粉コンテナ苗の植栽現場、月楯地区にある木質バイオマス利用の拠点となる月楯のチップ（㈱もがみ木質エネルギー）・ペレット（㈱丸徳ふるせ）・薪（もがみ地産地消エネルギー）の製造施設を視察しました。

また午後からは、向町地区の無花粉スギコンテナ苗木の生産育成のハウスを視察しました。

若者定住環境モデルタウンでは、県内初めての木質バイオマスエネルギー地域熱供給システムを採用し、チップ・ペレット・薪の各ボイラー運転状況や実際に住宅での給湯・暖房の熱供給状況を視察し終了しました。

今回の交流研修会の参加者からは、「ふだん見学できない様なところを見学できて大変良かった」「将来を見据えた取組を地域ごとに行っている」「今後も継続してほしい」などの感想が聞け大変良かったです。

この研修会で得たことをこれからの森づくり活動に活かしていただければと期待します。

無花粉スギコンテナ苗木の生産状況視察

〔最上総合支庁森林整備課〕

NKCながいグリーンパワー株式会社
木質バイオマス発電所 2017年7月竣工

NKCながいグリーンパワー株式会社は長井市に2017年7月12日に竣工したガス化木質バイオマス発電所です。

竣工式の模様

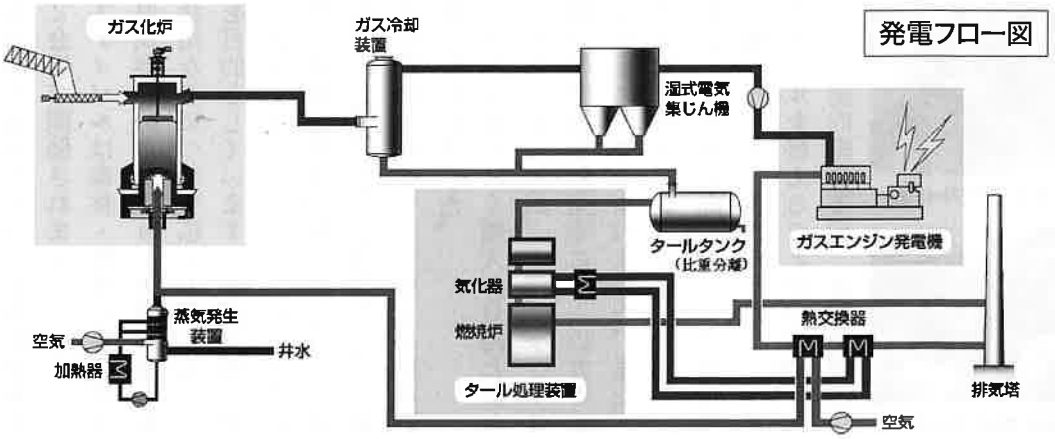
昨年7月には、地元の国会議員や県議会議員、長井市長や長井市議会議長、地域住民の皆様を招いて竣工式を執り行いました。

木質バイオマス発電は化石燃料の代わりに木材を利用することにより、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないというカーボンニュートラルな特性から二酸化炭素の排出の抑制が可能となり、地球温暖化の防止に貢献します。

当発電所では、発電所に隣接するチップ工場で丸太から作ったチップをガス化炉で燻して燃料のガスを生成させ、ガスエンジン発電機で発電するという日本でも珍しい発電方式をとっております。さらに当発電所のアップドラフト式ガス化炉は、高含水率のチップが使用できるので、乾燥のためのエネルギーが不要になり、同じ規模の直接燃焼方式よりも発電効率がよくなっています。

使用する丸太は、1年間で約2万6千トン（1日当たり約85トン）となり、年間発電電力量は、一般家庭約3千世帯分の1480万kwhになります。

当発電所では、主に未利用材（間伐材）を使用することを計画しています。これまでこうした木材は使い道がなく、山林に放置されていました。そうした木材を利用させていただくことで、地域の森林保全に寄与します。また、一般材として、近隣の皆様の屋敷木を買い取らせていただくことで、地域貢献に役立つことを目指しています。山形県内では小さな規模の発電所ですが、今後とも、地域の林業の活性化の一助となるよう努力してまいります。



施設の外観

〔NKCながいグリーンパワー㈱〕

羽越木材協同組合　酒田ホフの完成について

―庄内北部地域における森林資源のカスケード利用促進―

◆はじめに

羽越木材協同組合では、平成28年度山形県合板・製材生産性強化対策事業を活用し、酒田市平田地区に材のストックヤードを整備しました。

◆事業概要

事業期間は、工事用地として、平成28年6月に酒田市の未利用地を購入し、平成29年4月から工事を着工しました。あわせて施設整備を行い、9月30日に完成しました。

整備内容は、チップヤード5百10㎡（貯蔵量）・貯木場舗装約7千8百㎡・トラックスケール1式・フォークリフト1台となっています。貯木場には9千㎡の集材が可能で、11月より材の受入れを始めています。

◆事業の目的

この事業の狙いは、庄内北部地域の原木の全量買取りを行い、鶴岡市に整備を予定している同組合の製材工場（ラミナ生産工場）及び、既に稼働しているチップ工場へ材の安定供給を行うことです。

原木の全量を買取り、かつ当ストックヤードにおいて効率的な集材を行うことによって、同組合が運営する集成材工場への木材供給を強化することを目的としています。

また、自伐林家の情報交換ステーションとしての活用も考えています。

◆おわりに

この取組みにより、庄内北部地域の集材強化が図られるとともに、森林資源のカスケード利用の更なる促進が期待されます。

地域の皆様方には、材の生産・供給の御協力宜しくお願い致します。

〔羽越木材協同組合〕

酒田ホフの整備状況

「庄内森とみどりのフェスティバル2017」を開催しました！

今年も「庄内森とみどりのフェスティバル2017」が鶴岡市小真木原公園と酒田市みなと市場駐車場の2会場で開催されました。このフェスティバルは森林・林業の重要性や県民参加の森づくり、地域産材の利活用などについて広くPRすることを目的としています。鶴岡会場は10月21日（土）から22日（日）の2日間、酒田会場は10月22日（日）にそれぞれ「つるおか大産業まつり」、「酒田市農林水産まつり」等との同時開催で行われました。

今年はあいにく雨天に見舞われた日もありましたが、木工クラフト体験や林産物の販売等に多くの方々が足を止めて楽しまれました。また、きのこ汁のふるまいや緑化樹のプレゼントなどの企画イベントでは行列で賑わうなど、盛況のうちにフェスティバルを終えることが出来ました。

〔庄内総合支庁　森林整備課〕

木工クラフト体験

緑化樹のプレゼント

緑の募金

緑の募金

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、皆様の自主的な「森林づくり・緑づくり」活動のために役立てていくこととしております。

主に、学校や公園で行う身近なところの緑化や、林業まつりなどのイベントの開催、里山での森づくり、川上・川下地域の交流による森づくりなどの森林整備に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 山形県みどり推進機構

〈事務局〉〒990-2363　山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL(023)688-6633

森林やまがた　一七三号

平成三十年一月一日発行（隔月発行）

編集・発行　山形市松栄一丁目五番四一号　山形県森林協会

監　修　山形県農林水産部

印刷所　渡辺印刷

定価　二八八円